

実験心理学、認知心理学

講師 小手川 耕平
Kohei Kotegawa

現在の研究テーマと内容

主に子どもから高齢者、疾患既往者を対象として、ワーキングメモリや運動イメージなどの認知機能プロセスを明らかにするため、行動学や神経学（脳活動）的な手法を用いた研究を行ってきました。以下に近年取り組んでいる研究テーマの一例を示します。

- 1.身体障害（脳血管障害、高次脳機能障害）の機能回復に関する研究
- 2.若齢者や高齢者の運動イメージ能力やバーチャルリアリティ（VR）介入に関する研究
- 3.発達障害（ADHD・ASD・LD）児の認知機能の特性や支援に関する研究

これまでの研究成果と今後の展開

特に近年では、歩行運動イメージの加齢に伴う変化と個人差の発生機序を明らかにするための研究をとおり、歩行運動イメージの正確さは年齢や課題の難易度のみならず、認知機能、特に各個人の視空間ワーキングメモリ機能や前頭葉活動の一部と関連することを明らかにしました。今後は、運動イメージの個人差やその発生機序を考慮しながら、VRを用いて各個人に合わせた運動イメージ介入の開発を進めていく予定です。

また、発達障害児の研究において、コンピュータプログラムを用いた認知機能（実行機能）トレーニングには一定の効果がみられることが分かりましたが、今後はトレーニングを介した社会性の獲得や発達性協調運動障害の発生機序や介入に迫っていくような研究にも着手したいと考えています。

大学院を目指すみなさんへメッセージ

紹介した研究テーマ以外にも、道具に関する視線研究や高齢者・発達障害児の指先の運動に関する研究等、様々な研究に取り組んでいます。これらの研究テーマの解明に、実験心理学（実験プログラム作成・脳活動測定・視線計測・バーチャルリアリティ）、統計学的手法も用いながら取り組んでいるので、興味のある方は研究テーマを含めてぜひ、ご相談ください。社会人学生も歓迎します。